

地域コミュニティ活動推進フォーラム 開催概要

～いざという時に助け合える地域コミュニティを目指して～

東京都は、都民が地域活動を自分事として考えてもらうとともに、町会・自治会関係者等が活動のヒントとなるような情報提供を行うことを目的として、下記のとおり、「地域コミュニティ活動推進フォーラム」を初めて開催しました。

- | | |
|--------|--|
| ○日時 | 令和7年2月16日（日）14時～16時 |
| ○会場 | 都議会議事堂 都民ホール |
| ○参加者 | 74名【一般都民、町会・自治会関係者、自治体職員ほか】 |
| ○プログラム | 開会・主催者挨拶
第1部：パネルディスカッション
第2部：事例紹介・トークセッション
閉会挨拶 |

主催者挨拶

- 東京都は、町会・自治会活動など、地域の活動を色々な形で支援させていただいている。防犯や防災、災害時の対応、高齢者や子供たちの見守り、そして地域のつながりやにぎわいづくりなど、私たちの街や生活を豊かにする大切な役割を果たしていると実感している。
- 本日のフォーラムでは、さまざまな知見やご専門やご経験をお持ちの方にお集まりいただき、これからの地域コミュニティの活動などについて考えたいと思っている。本日のイベントが、来場の皆様にとって、地域活動についてのきっかけづくりになれば幸いです。

第1部：パネルディスカッション

- | | | |
|------------|--------|--|
| 【ファシリテーター】 | 小山弘美 氏 | 関東学院大学社会学部教授 |
| 【パネリスト】 | 齊藤広子 氏 | 横浜市立大学国際教養学部教授 |
| | 小野悠 氏 | 豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系准教授/
デジタル共創コミュニティ代表 |
| | 谷亮治 氏 | 京都市まちづくりアドバイザー/花園大学講師 |

第1部：パネルディスカッション

パネルディスカッション導入：町会・自治会調査結果について説明

- ・ 加入状況について、41.4%が加入、48.0%が加入していない、10.6%が不明との回答
- ・ 20代では18.2%、70代は75.3%、年齢が上がるにつれて加入が増えている傾向
- ・ 町会・自治会が抱える運営上の課題は活動の担い手の不足、固定化、役員の高齢化
- ・ 町会からマンションの連携は、参加者や担い手のほか、地域防災力の強化に期待
- ・ デジタル化の取り組みは役員間の連絡などで進むが、人材不足への懸念も。

○谷さん

・ 都市部は軒並み自治会の求心力は低下している。全国的な傾向。東京都というこれだけの大都会でありながら、自治会がすごく粘り強く頑張っていると思う。

・ 町内会とかは地縁でNPOは志縁と言われていた。近年、SNSとかスマホの普及によって新しいコミュニティの形が生まれている。僕は気が合うことが契機になって発生する縁という意味で気縁というふうに呼んでいる。コロナ禍で、子ども食堂などの気縁コミュニティが活動。

第1部：パネルディスカッション

○谷さん

- ・時代に合わせたつながりづくりで、自治会には最大の弱みがある。それがメンバーシップ型であるということ。非加入者にとってはどんなサービスかわからないから敷居が高い。都度払いオンデマンド型の活動というものを伸ばしていかないと、自治会という組織の維持存続、もしくはそこをコミュニティの拠点とすることが難しくなるのだろうと感じている。

○齊藤さん

- ・地域とマンションの連携で、私は三つの柱があると思う。組織の連携、イベントの連携、施設の連携。入っててよかったなという気持ちになっていただくことが重要。
- ・防災災害というのは、マンションは宙に浮いてるわけではない。地域と一緒にやらなきゃ意味がないので、ぜひ楽しみながら、防災カフェや防災街歩きなど共同でやっていって、一緒にやっていったらいいんだよねということを実感していただく。

○小野さん

- ・特にコロナ禍でやっぱり自治会がなかなか直接人と会うのが難しくなっていく状況の中で、試行錯誤をしながら、デジタルツールを使うようになった。

第1部：パネルディスカッション

○小野さん

- ・人材がそもそもいないという不安が挙げられているが、不安がある一方で、デジタル化への期待は、かなり皆さんが持っている。導入によって、若手がもっと入るんじゃないかとか。
- ・デジタル化はこれまでと違う繋がりも出てくると思うし、使いづらいという人もたくさんいると思うが、新しい自治会のあり方にも非常に大きな可能性が広がっていると思う。

○齊藤さん

- ・マンションの管理組合は輪番制。役員経験者を顧問会にするとか、専門委員会、そして役員以外にボランティアを募集して色々な役割のチームを作ったりしている。運営の仕方に工夫があって、働いてる人が役員になることを考え、オンライン会議などを上手に使っていく。
- ・マンションの管理組合で大学生が理事になったりしてる。役員のなり手不足問題は、皆さん共通で悩んでいると思うが、ちょっと発想の転換が必要かもしれない。若い人が考えると、若い人が来たくなるような企画をしてくれる。ボランティアでお手伝いする人を募集するなど、参加のハードルを下げるというのも一つかなと思う。

第1部：パネルディスカッション

○小野さん

- ・デジタル化というのは目的ではなくて手段・・・第1段階目のデジタル化というのは、今やってる作業を効率化するとか、負担を軽くすること。本質的には第2段階目が重要。デジタルだからこそできること、デジタルだからこそ生み出せる価値をみんなで作っていく。
- ・自治会は、地域住民が自分たちが住んでる地域社会を決めていく非常に重要なプラットフォーム。それが本当に今できてるのか、もっとやりようがあるんじゃないかというところがこの第2段階目の重要なところ。

○谷さん

- ・京都市では、自治会をととても大事にしているが、加入率というものを最重要指標とはしていない。平成期は結構重要視していたが、最近令和になってからやめた。すごくいい活動を頑張っているにもかかわらず、加入率が低いがゆえにすごく自尊心を失っている自治会があるということが問題になって、加入率絶対主義やめようという考え方をとっている。
- ・自治会ってというのはなぜ重要なのかというと、人と人とのつながりを助ける装置として大事。手段として大事という考え方なので、入ってる人たちが満足していないとか、加入したくないなと思っているような組織だったら、十分な機能を果たしていると言えない。

第1部：パネルディスカッション

○谷さん

- ・ 具体策として、一つ目は、手挙げ方式で部活を作るというのがお勧めかなと思っている。これは先ほど齊藤先生がおっしゃっていた自治会の中に専門委員会を作るのがいいというアイデアがあったが、それに近いかなと思う。例えば男の料理教室部とか、溝掃除部みたいな。おそらく従来の自治会活動ではなかなか出なかったような活動の例がある。

○小山さん

- ・ 総務省のコミュニティに関する研究会なんかでもデジタル化と協働っていうところを今後の取組の一手として出しているところで、やっぱり今のお話も色んなところと協働していくっていうことが一つ重要なのかなと思う。
- ・ 東京都だと地域によっては結構企業があるところもあると思う。学生とか子どもたちも大学入るためにボランティア経験を言わなきゃいけないみたいなことも結構ある。アプローチとしては少し目線を広げていくっていうのも、実は地域の中にすごく資源が眠っているっていうところが、今日のお三方のお話から見えてきたことかなと思う。

第2部：事例紹介・トークセッション

【ファシリテーター】 小山弘美氏 関東学院大学社会学部教授

【事例紹介団体】 馬込三本松町会（大田区）

高瀬住宅自治会（町田市）

【パネリスト】 津賀高幸氏 株式会社ダイナックス都市環境研究所

中山エミリ氏 タレント

○馬込三本松町会

・町会会館開放で、町の人に会館に気軽に上がっていただく、親しみを持ってもらうとやらせてもらった。神社の中に町会会館があって、一般の人が非常に入りやすい環境にある。

・町会でやるべきことは、町会の活動の見える化。住みやすくしているのは、やっぱり町会・自治会が機能しているから。

・高校生ボランティアに参加してもらい、子供たちに来てもらいやすいようにした。ベーゴマ大会、交通安全教室、着付け体験など。

第2部：パネルディスカッション

○高瀬住宅自治会

- ・災害は地震が起きてから復興まで一人の人間の流れがある。その流れをやるといいかなということで防災フェスタを思いついた。起震車体験、消火訓練、避難所での助け合い、大学の先生の話も。
- ・防災フェスタ、何だそれはというところから、地域の町会長さん、皆さんに説得を始めてやった。
- ・今までにない形で企画をした。そしたら力のある人がいっぱいいた。防災は皆さんが本当に危機に感じている、それを取り上げてみたら、力のある人が芽を出してくれた、そういう訓練だった。

○津賀さん

- ・二つの団体とも色々な団体さんと一緒にやってるってところが良くて、町会・自治会が何かやろうって言っても大変な部分もあったりする。自分たちの自治会とは別に協力を求めて一緒にやりましょうっていうふうにやったところがポイントだったように思う。

第2部：パネルディスカッション

○馬込三本松町会

・今回、高校生ボランティアに来ていただいたことで、実際に会って話しているとすごい大人な考えを持って、すごくいい取り組みをする子たちが多い。9割ぐらいの学生の方がアンケートに答えてくれて、それぞれ自分のアイデアを全部紙にしたためてくれた。例えば会館で映画鑑賞みたいなこととか。最近の子は結構デジタルで遊ぶっていうイメージあったが、結構昔遊びのベーゴマとか、トランプとかに熱中していた。取組としてよかったというふうに感じている。

○高瀬住宅自治会

・横串を入れるという意味では、町会や、青少年育成会、民生委員、学校のPTAが入った地区協議会では事務局長をやらせていただいている。横の連絡網が結構アンテナの中にはある。これがわからないよというような声を聞いた時、それは消防に聞けばいいとか、そういう人間が必ず地域にいる。それを探し出す。アンテナを張ることで、大丈夫だと思う。

○中山さん

・防災への準備など、背中を押してくれる存在が自分の町にいてくれるんだっていう心の安心感っていうのはとても大きいと思う。皆様が一生懸命やってくださってることって、本当に一人一人の生活と直結していることなんだなって改めて感じている。

第2部：パネルディスカッション

○小山さん

- ・ やっぱり町会・自治会ってすごい資源、ネットワークのハブ。どこに聞けばいいかわからないところのまさにその資源を丸々持っていることを改めて胸を張るべきことだと思う。
- ・ 加入率も下がったり高齢化していて、後ろ向きなことばかりに目がいってしまうけれども、もともと持っている力を、もっと発信していけることが重要。

○馬込三本松町会

- ・ 子供たちの面倒を見るの大変だって、町会の役員さんたちが思ったりするけれども、その辺の考え方。役員は当然1人、2人留守番でいるだけでいいからやっていただいた。怪我がないようにとか、色々あるけれども、やってみたら簡単にできた。

○高瀬住宅自治会

- ・ 防災フェスタは、9町内会の連合体、人材はかなり豊富。例えば消防団の団長をやっていたり、そういう人たちが結構他の町会にも色々な形でいる。
- ・ 若い人たちの参加はすごく重要。地区協議会のまつりに中学生が20人ぐらい参加した。先生から学生のためにいい経験になるので、ぜひやらしてくれと。これはすごくいい成功体験。

第2部：パネルディスカッション

○津賀さん

・町会の活動を見ていて思うのは、色々な人たちがイベントの準備をして、当日の運営をして片付けまでやって、来年もという一連の流れって、災害時にすごく役立つことだと思う。このサイクル自体が災害時に生きてくるんじゃないかなと思う。

○中山さん

- ・今日お話を伺わせていただき、皆さんの活動は地域の財産だになっていうのを改めて感じた。
- ・少しでも地域の皆さんとつながりを持って、子供を育てていけたらなと思っている。
- ・地域にある掲示板、そこからいただける情報って意外と大きくて、色々なことが知ることができるツールになっているので、残していただけると嬉しいなと思う。

○小山さん

- ・色んなところと一緒にやっぱり連携していったり、一步踏み出してみるってことが何か変わるきっかけになるのかなっていうヒントだったかなと思う。